

2021年1月27日

2020年度聖路加国際大学大学院看護学研究科  
課題研究

周産期の女性に対する Breast Awareness 普及に向けた  
教育媒体の開発

Development and Evaluation of an Educational Video about  
Breast Awareness for Women in Their Perinatal Period

19MW003

貫名光グレース

## 要旨

**【研究目的】** 本研究では、周産期の女性が入手しやすく、Breast Awareness（以下 BA とする）の知識・認識向上のために効果的な映像教材を作成し、教材の評価を行うことを目的とする。

**【研究方法】** 本研究は、妊娠・授乳期の助成を対象とした BA の知識・認識の向上を促すための教材の開発と評価を行う、開発研究である。リクルート対象は、妊娠中もしくは産後1年以内の女性、および BA の研究経験のある助産師であり、乳がん既往のある女性を除外した。対象から研究同意を得た後、対面にて試作版映像教材を視聴してもらい、評価表の記入により教材の評価を求めた。試作版映像教材は、既存のパンフレットや冊子、文献をもとに、(1)乳がんの基本的知識、妊娠関連乳がんについて (2) BA の言葉の意味 (3) BA の概念に内容を絞り、計7分間とした。映像編集には、マイクロソフト PowerPoint、及び編集ソフト Adobe Premiere Rush を用いた。評価表の内容は、教材の見易さ、聞き取りやすさ、時間の長さ、BA の理解度、自由記載欄とした。研究は、聖路加国際大学研究倫理審査委員会にて審査を受け、承認を得た上で実施した（承認番号：20-A077）。

**【結果】** 研究対象は、計3名（産後の女性2名、BA に関する研究経験のある助産師1名）であった。映像教材の構成については、2名が5段階中4番目の【不適切でない】を選択し、研究者が映像教材に終始出演するという演出について「資料よりも人物が気になった」等の指摘を受けた。教材の見易さや聞き取りについては「イラストがあってよかった」等肯定的評価を得ることができた。BA の概念の理解については概ね適切であるとの評価を得たものの、映像教材の作りや内容については指摘事項が得られた。

**【結論】** 試作版映像教材においては映像教材の内容、またその作り方において課題があげられた。また、得られた評価や先行研究などから、映像教材を作成する場合、長さは5分程度が妥当であると考えた。映像教材の修正点として、伝える内容によってはアニメーションや実演の様子を加えるなど作り方・見せ方に工夫を加える必要がある。また、追加すべき情報として40歳より始まる乳がん検診の助成が受けられる年齢に達するまでの検診の受診方法が挙げられた。これに加え、出産後に月経が再開するまでの乳房のセルフチェックについても説明が必要である。これらの点について改訂版の映像教材を作成し、その後に再評価を得て洗練させ、実用性のあるものに仕上げていく。